

都市ツーリズムと博物館

—ヨーロッパと日本の比較—

寺阪 昭信

1 はじめに

博物館は古から現在にいたる文化財の収集・保存・展示・教育・研究を主要な機能としている。その存在のあり様は国、地域、都市の文化水準を反映している。本論では博物館そのものの内容には深入りせずに、ツーリズムの観点からその立地、規模、入場者数といったデータを用いて都市、特に大都市とのかかわりを検討する。一般人の関心としてはどのような建物に何がどう展示されているかが重要である。都市ツーリズムの観点から、文化的な側面において、都市の歴史的遺産・建造物と並んで、博物館・美術館は最も代表的な観光資源の一つであり、景観的にも存在感がある建物の場合が多い。それゆえにツーリストの訪問地となるし、都市にとっては重要な集客装置である。

ヨーロッパの都市においては王侯貴族の個人の収集品が革命や、民主化の流れの中で国や自治体の管理下におかれて一般に公開されるようになってきたというその歴史的由来から、都心に当たる旧市街にある場合が多い。種類と規模の多様性が大都市から中小都市までに及んで存在している。一般向け、啓蒙的なものから狭い範囲の専門色の濃い、あるいはマニアックな興味を持つ少数の人のためまで様々である。運営も国が直接かわるものから地方公共団体、企業、財団、個人と多様性がある。総じて都市構造とのかかわりにおいて博物館の歴史が長いヨーロッパとそれが浅い日本とでその立地が大きく異なっている。博物館の立地や都市構造の中での位置づけに関して、地理学からはほとんど、少なくとも日本においては、アプローチされていないと思われる。いづれの国においても大都市においては博物館の集中が目につく。特にパリ、ロンドン、ベルリンはその現象が著しい。これらの大都市は多くの機能を持っているから、その一部として機能しているに過ぎないが、文化面からみるとその存在は巨大である。ツーリストを吸引する魅力は大きい。初めてロンドンやパリに行き、大英博物館、ルーブル博物館を訪問しない人は少ないと思われる。巨大な総合博物館はそれだけ人をひきつけるものがある。

博物館の種類 博物館として一括してくられる中に、美術館、古文書・資料館、動物園、植物園、水族館、プラネタリウムも含まれ、近年ではエコミュージアムといわれる野外博物館も増えている¹⁾。歴史、民俗系の博物館はその国ないし地域に関心がないと興味がわかないし、その言葉が出来ないと説明も理解し難いものに対して、美術館について言えば、美しいものを鑑賞することはより普遍性がある、外国人にとっても理解しやすく訪れやすい。ヨーロッパの諸都市においては、専門の美術館とともに美術部門を持つ総合博物館が多く存在する。

設立主体については組織を検討し、管理する側から見れば重要であるが、一般の利用者である観客側からするとさほど問題ではない。フランスでは重要な博物館は国立が多いのに対して、日本では国立が少なく、それらの設立の年代とともに検討する必要がある。訪れる人にとっては規模と質、入場料のほうの方がより重要な関心事である。国や地方公共団体の博物館が、個人や財団のものよりも入場料が安いとは限らない。全体的に日本の方が入場料は高い。外国の場合で言えば学生や高齢者に対する割引がしっかりしているし、イギリスの国立博物館は基本的に無料である。これは世界各地からいろいろな方法で集められてきたものを世界各地から来館した人に公開するという趣旨と読み取れる。その上ギリシャのパルテノン神殿の破風のようにかつての入手方法に問題があり、返還運動が続いている因縁のある展示物まで含まれているためでもあると思われる。また週に1日（水曜日とか日曜日）無料や割引き日を設けている場合も多く見られる。入館者の数は比較的正確に把握されていると思われる。ここではフランスの博物館についての入場者数が判明するのでそれを検討してみるが、ルーブル博物館と幾つかのものを除くと多くの博物館の入場者数はそれ程大きくはない。日本については入場者数を把握できないが、限られた博物館と、注目される特別企画展の場合を除くとそれ程の入場者はいないし、特に地方都市においてその傾向は強い。国立博物館も独立法人化され、地方公共団体の財政状況が悪化する中で、それをどのように維持発展させていくかそれぞれの文化政策が問われることになる。

また、日本の博物館については開館年次とともに規模を建物の延べ面積で比較することが出来る。博物館によっては展示場の面積が分るが、統一的に検討するほどのデータはない。もちろん博物館の評価を建物の規模のみで評価するわけにはいかないし、収集品目の内容や数でも比較することはいっそう困難である。規模が大きければそれなりの可能性を取り込んでいえるといえよう。

2 フランス

フランスの博物館については県別・コミューン別のリストが存在する。約8000の博物館があり、そのうち国立がパリに11、イル・ド・フランスに8、その他の地方に13、さ

らに約1100が文化省や教育省など国の統制下に置かれている。大都市の博物館についてみると表1のようになる。パリに圧倒的に多くあるのに対して、地方の大中心都市もストラスブールの69を筆頭にマルセイユ、ボルドー、リヨン、トゥールーズ、ニースと30以上の博物館がある。他方、中心性は低く、人口規模も10万人前後の都市でもアヴィニヨン、ブザンソン、ラ・ロシェルなどには20程度の博物館がある。

この表1ではフランスにおける観光都市を都市の人口規模とガイドブックのギドブルーとミシュランの評価基準に基づいて選定した。両者の最高の評価である3星が一致した場合の6については人口3万人以上（その結果6にもかかわらず外れたのはルルド、ル・ピュイ）、どちらかに2星についている場合の5については人口4万人以上（その結果6にもかかわらず外れた小都市はアラスなど10都市）とし、例外的に人口10万人以上の都市で両者の評価が2星で4となる場合の4都市をリストに加えた。このような作業によって表には47都市がリストに上がる。

それらの都市の博物館・美術館総数と主要美術館の名称を表に示した。これにパリ及びビル・ド・フランスを除いた全国の博物館の分類別リストと分布図がIGNから出版されたものを利用した（初版2000年）。ここでは次の分類に基づいて4分冊に整理されている。博物館が各部門にわたり各地に多数存在していることを示している。

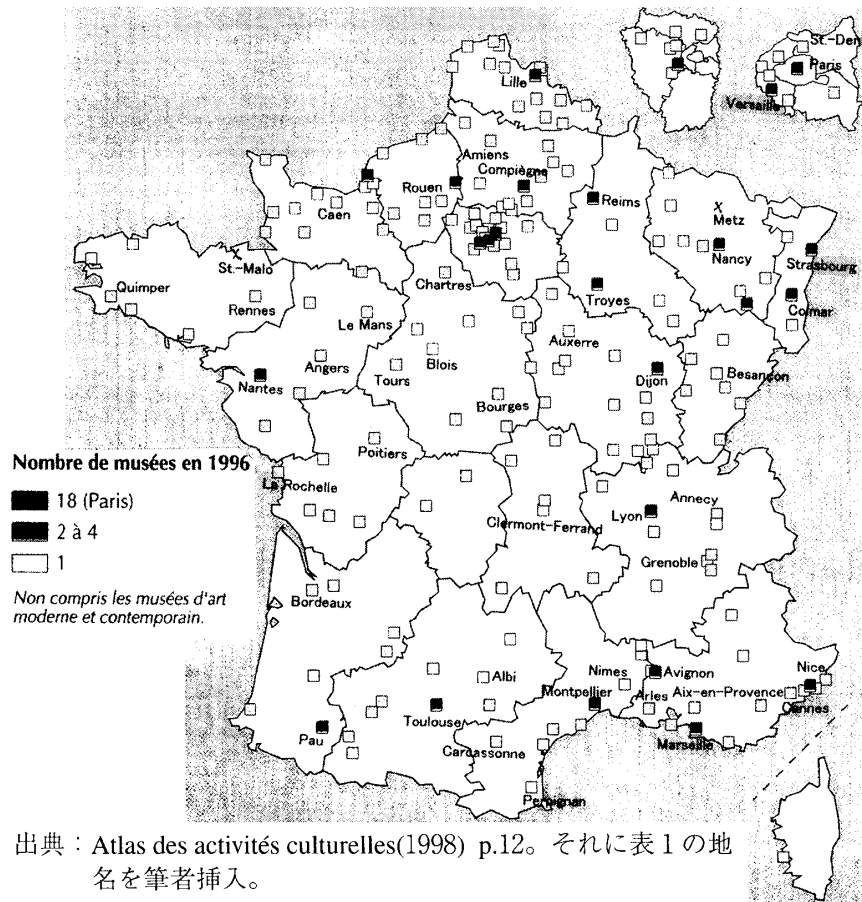
- 1 芸術系 美術館 (beaux arts) 95, 工芸 (arts décoratifs) 80, 近現代美術 (art moderne et contemporain) 36, 総合135, 合計346
- 2 歴史系 郷土史 (histoire régionale) 170, 文学・個人 (littéraires et biographiques) 72, 歴史的事蹟 (古戦場など) (événements historiques) 38, 総合 22, 合計302
- 3 考古学系 先史時代 (préhistoire) 32, ガリア・古代ローマ時代 (méditerranéenne gauloise et gallo-romaine) 80, メロヴィング朝・中世時代 (mérovingien et moyen-age) 11, 総合190, 合計 313
- 4 科学・技術・社会系 民俗 (arts et traditions populaires) 158, 産業技術 (industrielles et techniques) 85, 個別テーマ (thématiques) 103, 総合54, 合計400

これら合計1,361によって主要な博物館の存在が明らかにされてくる。美術館がない都市というのは見当たらないが、歴史系すなわち郷土史、考古学博物館がない都市はいくつかある。さらにギド・ブルーにおいて評価の高い美術館と近現代美術館のうち入場者数が分るものを掲げた。さらにMironer (2001) がアンケート調査した100の博物館に当たるものをイタリック体で名称を記入した。ただし、この調査は特に美術館系のみを取り上げたのではないので、ここでは煩雑になるために、自然科学系と純粋な考古学博物館を省略した。調査された62都市のうち24都市がこの表に含まれることになる。したがって、重要な博物館がかなり地方の小都市にも分散して所在していることが認められる。図1はフランス文化省が作成したアトラスから1996年の美術館の分布（近現代美術館を除くとある）を抜き出したものに、表1の地名を加え、表にはあつて地図にない都

表1 フランス観光都市の博物館・美術館

	都市	人口	評価	博物館	美術	考古	歴史	美術館と入場者数 (1000人) 2000年			
1	Aix-en-Provence	126	5	15	4	1	1	Cezanne	88	Garnet	59
2	Albi	48	6	7	1	1	0	Lautrec	159		
3	Amiens	136	5	10	2	1	0	Picardie			
4	Angers	146	6	14	4	1	1	Beaux-Arts	44		
5	Annecy	51	5	11	1	1	0	Château			
6	Arles	52	6	9	1	1	2	Réattu			
7	Auxerre	40	5	9	2	2	1	Leblanc-Duvernoy			
8	Avignon	89	6	20	2	1	1	Petit Palais	36	Angladon	29
9	Besançon	119	5	19	2	1	1	B-A et Archéologie	68		
10	Blois	49	5	7	2	1	0	Chateau de Blois			
11	Bordeaux	213	6	31	3	1	3	CAPC Aquitaine	69	Beaux-Arts	
12	Bourges	79	6	9	2	1	0	Berry			
13	Caen	115	6	9	1	1	2	Beaux-Arts	68	Normandie	
14	Cannes	69	5	8	2	1	0	Castre			
15	Carcassonne	45	6	14	1	1	0	Beaux-Arts			
16	Chartres	41	6	6	1	2	0	Beaux-Arts			
17	Clermont-Ferrand	140	4	10	1	1	1	Beaux-Arts			
18	Colmar	63	6	10	2	1	1	Unterlinden	240		
19	Compiègne	44	5	7	1	1	2	Château			
20	Dijon	230	6	21	4	1	0	Beaux-Arts	147	Magnin	
21	Grenoble	153	4	19	1	2	3	Grenoble	137	Dauphinois	
22	Lille	172	5	15	2	0	1	Beaux-Arts	149	Hospice Comtess	54
23	Lyon	422	6	48	4	3	2	Beaux-Arts	261	A. Contemporain	89
24	Le Mans	148	5	7	2	1	0	Tessé			
25	Marseille	801	5	40	6	4	2	Vieille Charité	91		
26	Metz	123	5	10	1	1	1	Cour d'Or	44		
27	Montpellier	210	5	27	3	1	1	Fabre			
28	Nancy	102	6	17	3	1	1	Beaux-Arts	114	Ecole de Nancy	52
29	Nantes	250	6	17	2	1	2	Beaux-Arts Chât. Duc de Bretagne	89	Dobrée	
30	Nice	345	5	36	8	2	2	Chagall A.Moderne Contempo.	240	Matisse	174
31	Nimes	133	6	16	3	2	1	Maison Carre	131		
32	Paris	2152	6	242				表2	354		
33	Pau	87	5	7	1	0	3	Château de Pau			
34	Perpignan	108	4	13	1	0	1	Beaux-Arts			
35	Poitiers	86	5	10	2	2	0	Sainte-Croix			
36	Quimper	62	4	9	1	1	1	Beaux-Arts		Dep. breton	
37	Reims	185	6	14	3	1	2	Palais du Tau St. Remi	62	Beaux-Arts	38
38	Rennes	203	5	6	1	2	1	Beaux-Arts	56	Bretagne	
39	La Rochelle	71	6	24	3	2	1	Beaux-Arts			
40	Rouen	105	6	16	3	1	3	Beaux-Arts	75		
41	St.-Denis	89	5	3							
42	St.-Malo	48	6	9	2	1	2				
43	Strasbourg	255	6	69	5	1	1	A.Moderne Contempo. Palais Rohan	136	Alsacien Oeuvre Notre-Dame	
44	Toulouse	368	6	33	4	3	2	Augustins	107		
45	Tours	129	5	14	1	1	0	Beaux-Arts	53		
46	Troyes	60	6	12	3	1	0	A. Moderne	30		
47	Versaille	87	5	9							

注：都市の選択基準は本文参照。博物館数は Guide Renault 8000(1996)。人口は1999年
博物館・入場者数は Observatoire National du Tourisme No.74, イタリックは Mironer(2001) の対象
博物館



出典：Atlas des activités culturelles(1998) p.12。それに表1の地名を筆者挿入。

図1 フランスの美術館

市2カ所（メスとサン・マロ）に×印を加えて載せたものである。全国の都市に美術館が存在するが、パリ周辺から北部にかけての分布が多いことが読み取れる。ボルドーを除いて大都市には複数あることを示している。美術館が博物館の中では最も人気の高いものである。またその数も増加している。

2000年における美術館の入場者数の調査（Observatoire National du Tourisme）では124がリストアップされている。大都市以外のものも含まれているが、そのうちパリは14を数えているし、地方中心都市の美術館は入場者数のランクで上位にある。地方都市の美術館については日本のガイドブックにはほとんど紹介されていないし、日本人観光客を眼にすることは少ないが、立派な建物と優れたコレクションを持っている地方大都市も多い。

パリ

パリ市20区に存在する博物館を見ると、ルノーの博物館リストでは242を数える（1996年）。また2003年の各種公共・私施設のリストとそれを図にした報告書（Inventaire）によると144が挙げられている（オリジナル資料はPariscope, L'Officiel des

Spectacles. APUR 2002とあり、毎週発行されているガイドブックに情報を掲載している博物館が対象となっていると思われる)。パリとその周辺のイル・ド・フランスにはルーブル博物館を筆頭に大小様々な博物館・美術館が多数あり(表2)、ツーリスト、特にルーブルは2/3の入場者が外国からといわれている。ルーブルはフランスの中では年間入場者数がぬきんで多く、毎年500万人から600万人台の人が来館している。ここに近いオルセー、オランジュリーを加えた3つの美術館で、全フランスの入場者の半数以上を占めている(サロワ)。またこれらの博物館では入場者の約60%が外国からの観光客である。それほどパリ都心に観光客が多く集中している。ルーブル博物館をはじめとして、美術館系が約半数を占めている。とくにギド・ブルーに3星に評価されているものにその傾向が強くて、入場者数も多い。

オルセー美術館は1848年から1914年までの印象派を中心とした芸術作品を展示するためにルーブル博物館から分離されてつくられた。かつての鉄道駅を転換することが1977年に決定されて1986年に完成させた。延べ床面積、16,000m²という広さを持つ。ルーブル博物館も大ルーブル構想として1983年から1993年にかけて改修が続けられ、中庭のガラスのピラミッドの建設により、大きくイメージを変えたとし、その後も整備が続いている。

ポンピドゥー・センターの存在感はパリの美術館のなかでも近現代美術に関して特記すべきものであろう。都心の再開発により1977年に出現したこの建物の巨大な規模と外観の奇抜さは、パリの都市景観に大きな刺激を与えたといわれる。エスカレーターからのパリ市の眺めもすばらしい。入場者も多いがここでは外国人は少ないという調査結果が出ている(Mironer)。

博物館の所在地を20区別に検討すると、都心を構成する1区から9区までに131、それに西部の15・16区を加えると168となり、総数242の70%を占めることになる²⁾。多くの入場者数がある主要な博物館はほとんど含まれることになる。区別にすると最大は7区の25を筆頭に4、5、6区の都心4区で37%を集めている。ルーブル博物館を核としたセヌ川を挟んだ都心に有名な博物館が多くある。

表2はギド・ブルーによる1～3星の評価基準から分類³⁾したものと、2000年の国立観光調査所(Observatoire National du Tourisme)の入場者数調査にリストアップされたものを加えたもので全部で51になる。入場者数が判明するものについてはその数が多いものから並べたが後はややランダムである。ギド・ブルーは伝統的な文化を重視したガイドブックであるので、博物館・美術館を整理するに最も適したものと考えた。ただしこの書の性格から、科学技術・専門系の博物館に対する評価は低いきらいがある。

図2は報告書(Inventaire)の144博物館を元に(87p.)、表2にあわせて修正したものである。この144を区別に見ると、16区の21を筆頭に5・6区に16ずつありその3区合計が53の37%、それに11ある1・3・7の3区を加えた上位6区で86に達して2/3を占

表2 パリの主要博物館と入場者数 (2000年)

博物館	評価	分野	入場者数	
			1000人	階級
1 Louvre	3*	美術	6,100	3
2 Orsay	3*	美術	2,490	3
3 National d'Art moderne	3*	美術	1,558	3
4 National du Moyen Age(Clunay)	3*	美術	297	2
5 Carnavalet (Histoire de Paris)	3*	歴史	248	2
6 Guimet	3*	美術		2
7 Arts décoratifs	3	美術		2
8 Cité des sciences et de l'industrie	2*	専門	3,088	3
9 Armée	2*	歴史	843	3
10 Palais de la Découverte	2*	専門	636	3
11 Picasso	2*	美術	596	3
12 Rodin	2*	美術	560	3
13 Arts africains et océaniens	2*	社会	313	2
14 Petit Palais	2*	美術	312	2
15 Jacquemart-André	2	美術	190	2
16 Homme	2	社会	132	2
17 Marine	2	専門	125	1
18 Arts et Traditions populaires	2	社会	36	1
19 Marmottan	2	美術	38	1
20 Monuments français	2	歴史		1
21 Histoire de France	2	歴史		1
22 Histoire naturelle	2	自然史		2
23 Orangerie	2	美術		1
24 Mode et du Textile	2	美術		1
25 Nissim de Camondo	2	美術		1
26 Chasse et de la Nature	2	自然史		1
27 Bourdelle	2	美術		
28 Grévin	1	歴史	600	2
29 Catacombes	1	考古学	206	2
30 Victor Hugo	1	歴史	101	1
31 Cognac-Jay	1	美術	46	1
32 la Vie romantique	1	美術	35	1
33 Arts et Métiers	1	技術		2
34 Maison de Balzac	1	歴史		1
35 Serrure-Bricard	1	専門		1
36 Plans-reliefs	1	専門		1
37 Legion d'honneur	1	専門		1
38 Radio-France	1	専門		1
39 Hebert	1	美術		1
40 la SEITA	1	専門		1
41 Institut Pasteur	1	専門		1
42 Assistance publique(Hopiteaux de Paris)	1	専門		1
43 Grande galerie de l'évolution	0*	自然史	483	3
44 Art moderne de la Ville de Paris	0	美術	428	3
45 Galerie de Paléontologie et de minéralogie	0	自然史	245	1
46 Art et d'Histoire du judaïsme	0	美術	93	2
47 Serres du Jardin des Plantes	0	自然史	78	1
48 Cernushi	0	美術	58	1
49 l'atelier de Delacroix	0	美術	42	1
50 l'atelier de Gustave Moreau	0	美術	29	1
51 Vieux Montmartre	0	美術	29	1

資料：Guides Bleues Paris 1999 評価,*印は100博物館の対象 (Mironer 2001)

：Les sites touristiques en France métropolitaine 入場者数と分類

Inventaire des équipements publics et privés à Paris 入場者数階級

1：10万人未満 2：10～50万人 3：50万人以上 *Mironer(2001)に記載

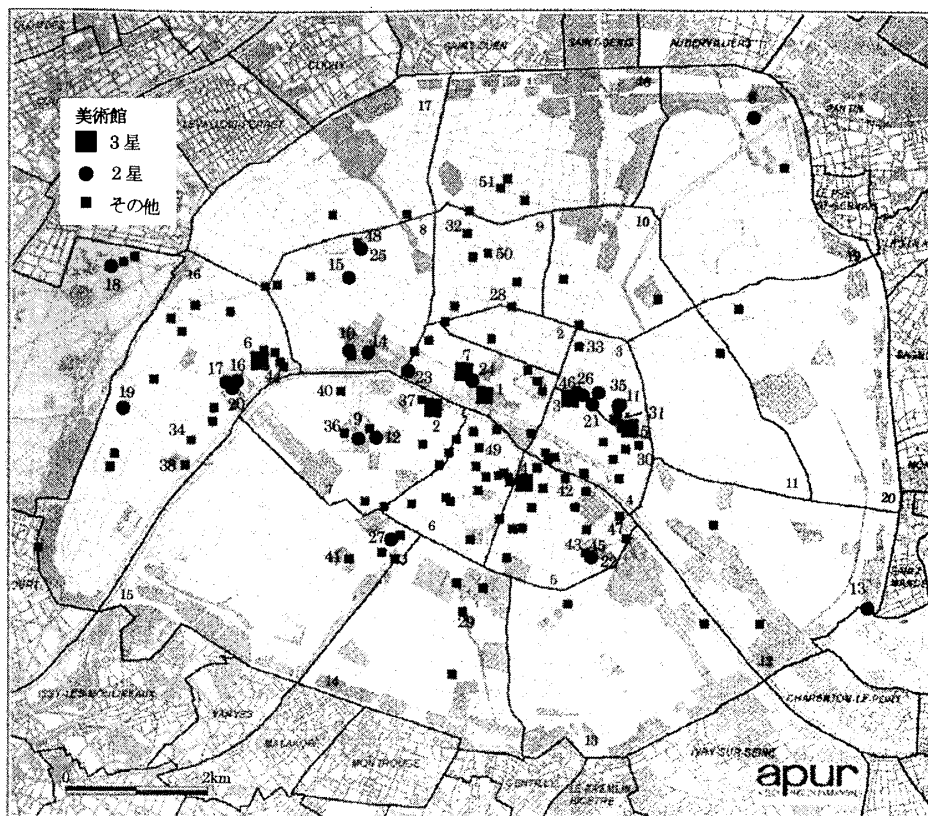


図2 パリの博物館・美術館

出典：Inventaire des équipements publics et privés à Paris (2003) p87

注：上記の図を一部修正。図中の番号は表2に対応。分類はGuides Bleueによる。

めている。前述の区別よりも都心の占める割合が高いことになる。セーヌ左岸（5・6・7・13・14・15区）が54で右岸が90ということで2対3という比率で分布する。このことは前述のルノーのリストの場合も同じである。しかしより重要度の高い博物館（3星と2星）は右岸のほうに多いことが分る。博物館はセーヌ川を挟んで都心部にあるということである。

観光としてはポンピドゥー・センターの新設、ルーブルの改修やオルセー美術館に注目が集まるが、ヴィレット地区の科学産業都市・音楽博物館の新設はより新しいタイプである。自然科学系博物館も改修が加えられているし、東洋美術のギメ美術館も長い間改修工事が行われていた。パリにおける博物館・美術館の存在意義はパリにとってもフランスにとっても大きなものがあり、博物館の整備は重要な課題となっている。

3 ロンドン

イギリスの博物館においてもロンドンの占める地位は大きなものがある。ロンドンもまた大英博物館を始め多くの博物館・美術館がある都市である。近代的博物館の始まり

は1683年のオックスフォード大学といわれるが、本格的な大コレクションを展示した博物館は1753年の大英博物館が最も古いといわれている。この博物館は世界各地からの膨大な考古資料、図書、美術品が集められてきた。それを見るにふさわしい壮大な建物が建設され、改修を加えられてきた長い歴史がある。大英博物館はロンドン発祥の地であるシティ地区と西のウェストミンスター地区との中間のブルームズベリーに存在する(カムデン地区)。1998年に図書館が少し北のターミナルの一つであるセント・パンクラス駅近くに移転し、その跡は2000年のミレニアムを記念してミレニアム・コートが完成し、さらに一連の改修が行われてきた。

ロンドンの博物館はScimoneとOldingのガイドブックによると大都市圏全部で269ある⁴⁾。展示の内容からは44の分類がなされているが、要するにほとんど全ての種類の博物館があるということである。個人のコレクションが公開される形式が多いことにイギリスの博物館の特色が出ている。図3に大ロンドンを32の地区(バラ)別に分布をみると見ると、そのうちシティに21、ウェストミンスターに55、その中間北にあるカムデンの33を加えた中核部分で138と大ロンドン都市圏のおよそ半数を占めることになる。テムズ川右岸の南部には69と約1/4しかない。この分布の偏りは都市の発展が左岸に始まったこととつながっている。

シティ地区には数は21とそれなりにあるがイングランド銀行博物館や郵便博物館などはあるものの総合的な一般受けのする博物館はない。それに対してウェストミンスター地区には55と最大の集積があり、ナショナル・ギャラリー、肖像画美術館を始め自然史博物館、科学技術博物館、ヴィクトリア・アルバート博物館、テート・ギャラリーといった主要博物館が存在する。大英博物館をはじめとして主な博物館はテムズ川左岸にあることになる。

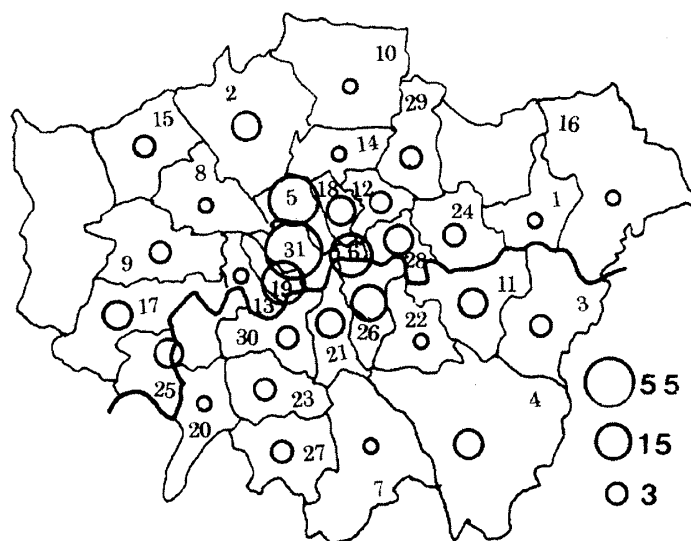


図3 ロンドン大都市圏の博物館

注：London Museums and Collections (1998)を用いて筆者作成

ロンドンの観光地点評価として、ミシュラン（緑）を使うと3星に当たる博物館は6あり、大英博物館を筆頭にナショナル・ギャラリー、科学・技術博物館、ヴィクトリア・アルバート博物館、テート・ギャラリーそれにワラス・コレクションである。また2星は7あって、ロンドン博物館を除くと旧火力発電所の建物を転換した新しいユニークな現代美術館であるテート・モダン（右岸）を含めて後はすべて美術館系である。他に1星が11、星なしで紹介されている（表2の0に当たる）博物館は19あり、これらの中では美術館系は少ない。いずれにしても都心に集中的に立地しているところはヨーロッパ大陸の都市と共通である。

4 ドイツ

ドイツは連邦制をとっているために全国の博物館リストを今のところ見つけ出していないので、全体を概観することはできない。第二次大戦に際して、多くの博物館・美術館は大きな被害を受けたが、収蔵品は避難して被害を少なくし、建物の復旧は迅速に行われた。大都市ベルリンやミュンヘンには博物館も多く、しかも規模も大きく重要な博物館が多数ある。そのほかの都市でも、ドイツを代表するガイドブックのベデカーにおいて2星で評価されている都市のなかではブレーメンハーヴェン、フランクフルト・アム・マイン（マイン川左岸に市立博物館を始め6つの博物館が並んでいるし、対岸にもユダヤ博物館、歴史博物館がゲーテハウスとともに都心部にある）、ハンブルク、ワイマールが観光資源の第1位に博物館を取り上げている。その他にもドレスデンのツヴィンガー宮殿にある古典絵画館、通称ドレスデン国立美術館も評価が高く、2005年の「日本におけるドイツ年」に際してベルリンとともに展覧会が開かれている。

ベルリン

ベルリンもまた世界有数の博物館をもつ大都市である。ベルリンの博物館についてのガイドブック（Berliner Museumsführer 2002）には180近い博物館のリストと95の博物館の解説が12地区に分けて記載されている。都心の2地区に34と1/3以上が集まっている。なかでも5つの大博物館が存在する博物館島の存在がこの都市を特徴づけている。（図4）それを核としてその周辺の旧東ベルリン都心周辺に17、また西のシャルロッテンブルク宮殿付近に6、西南のベルリン自由大学のあるダーレム地区に5（少し離れて植物園もある）という集中地区がみられる。

博物館島はベルリンの発祥地であるケルンと呼ばれたシュプレー川が分流して流れる間の島状の部分の北側に5つの大博物館（前述の文献では工事中のため新美術館は記載されていなかった）がある。市役所からも近くて1km内、ブランデンブルク門からも1km程度である。鉄道を挟む最も北にあるのがボーデ美術館（Bodemuseum）エルンス

ト・イーネによりフリードリッヒ皇帝博物館として1897-1904年に建設された。線路の南側もっとも巨大な建物がペルガモン美術館 (Pergamonmuseum), この地区で最後に建設された巨大な博物館である (1909-30年)。現在のトルコのヘレニズム時代のペルガマ遺跡から発掘復元したものを収容している。その南にウイヘルム4世の命で、西側に新美術館 (Neues Museum) がオグスト・スチューラーによって1841-46年に、東寄りに旧国立美術館 (Alte Nationalgalerie) が同じくオグスト・スチューラーとハインリッヒ・ストラックによって1866-76年に建設された。前者は現在再建中である。大通りに近い最も南側に旧美術館 (Altes Museum 1825-30年シンケルの設計, 大戦で破壊されて1966年再建され, 特別展に用いられている) があり, ベルリン大聖堂に接している。左岸のウンター・デン・リンデン通りは巨大なドイツ歴史博物館 (Zeughaus ヤン・デ・ボートによる設計, 1706年兵器庫として作られ, 後に軍事博物館となり, 東ドイツ時代の1967年から歴史博物館, 1991年から現在の形となった) も近くである。

近年話題になっているのはユダヤ博物館である。市役所から南西に約2kmの位置にあり, ベルリン博物館と隣り合っている。ダニエル・リベスキンドの設計 (1993-97) により2001年に開設されたユニークな存在であり, 複雑な回廊状の形の建物と中庭がある。ドイツ・ベルリンにおけるユダヤ人の歴史と文化を主とした展示であるから, 気楽に楽しむ博物館とは異なるが, それにふさわしい緊張感を建物自体が作り出している。各地にあるユダヤ博物館の中でも傑出した存在であり, 一度は体験してみる価値のある博物館である。

その他には統一後大建設が進んでいるポツダム広場に近い旧西ベルリンの外れに位置していたコンサートホール付近に, 新国立図書館, 新国立ギャラリーを軸に文化セン

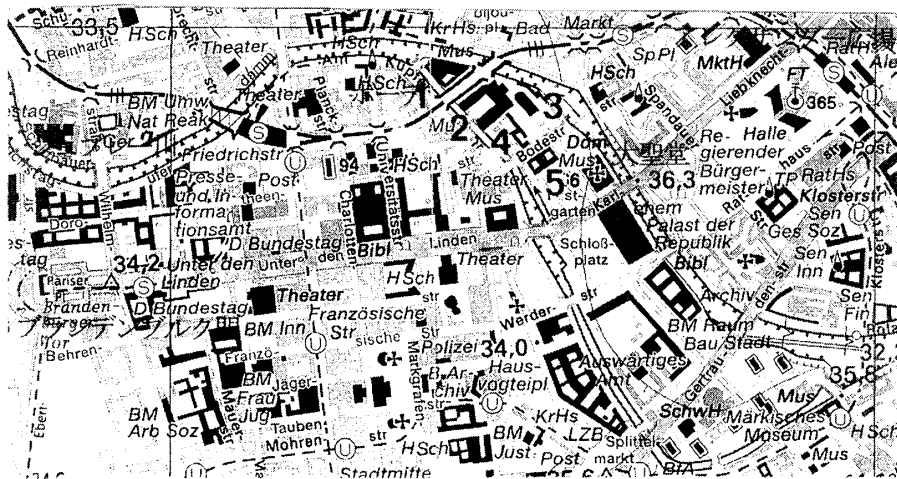


図4 ベルリンの博物館

出典：Topographische Stadtkarte 1:25,000, 3446 Berlin-Mitte (1997) に次の博物館名などを加えた。

- 1：ボーデ美術館 2：ペルガモン博物館 3：旧国立博物館 4：新美術館 5：旧美術館

ターとして施設の集中がみられる。ベルリンはいま激しく変わり続けている。

ミュンヘン

ミュンヘンの重要な観光要素は博物館である。旧市街を核とした部分とその北側に展開する博物館群がある（図5）。1999年に年間380万人の入場者があった（Atlas p.204）。この都市の中央を流れるイゼール川の中州にあるドイツ博物館は名前が示すとおり自然科学・工学系のドイツ最大の博物館である。1903年に建設され、地下1階、地上3階建ての建物に野外の展示場もある。科学技術系のあらゆる分野を網羅している。さらに旧市街の北西部、ミュンヘン工科大学のある地区にアルテ・ピナコテーク（1836年）とノイエ・ピナコテーク（1853年、爆撃で大破し、アレクサンダー・フォン・ブランカによって1967年に再建された）の2つの大美術館が道路を挟んである。ルートヴィッヒI世が芸術の都を築く計画のもとでレオ・フォン・クレンツによって建設された。前者が14世紀から18世紀にかけての古典からの伝統的な美術館であり、後者は18世紀から20世紀にかけての近代美術館に分かれている。その東に第3のピナコテークとしてステファン・ブラウンフェルスにより2002年に新設されたピナコテーク・デル・モデルネは1950年以降の作品を扱う現代美術館であり、75万人の入場者がある（図5の大きな黒丸）。

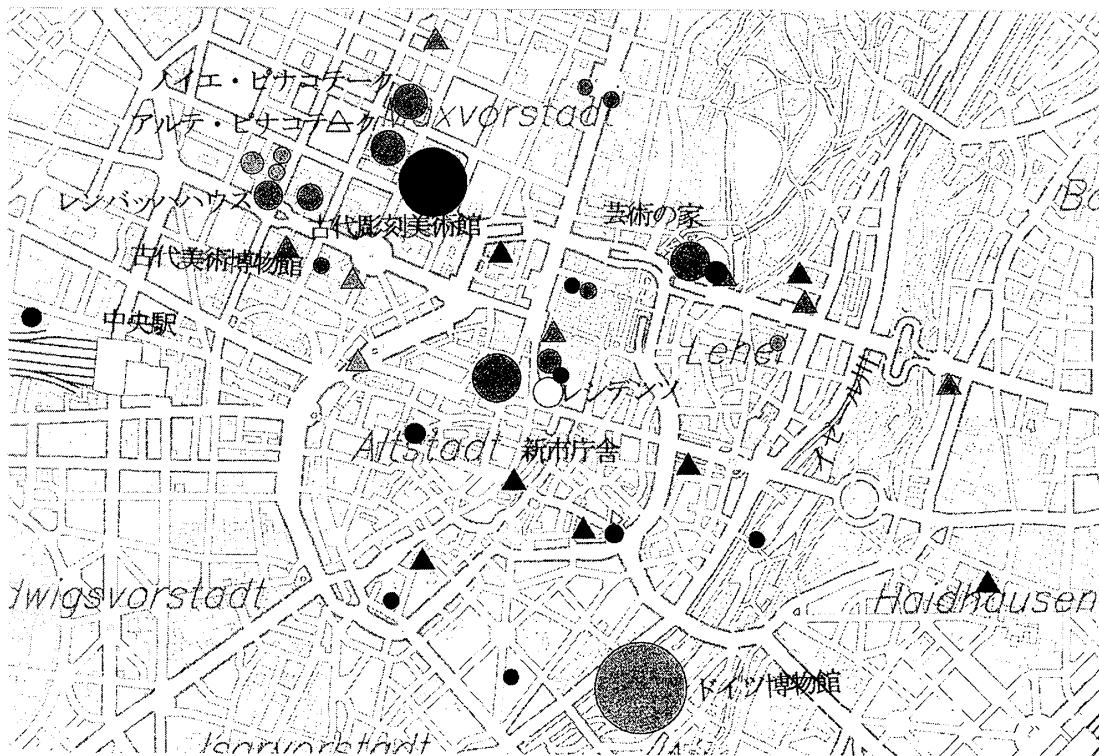


図5 ミュンヘンの博物館

出典：Der München Atlas (2003). P.205 Museen in München 縮尺約1:33,300。図中の円は入場者数に対応（本文参照）。三角形は入場者数不明な施設。主要な美術館・博物館に名前を入れた。

さらにその南の広い空間にはグリユプトテーク/古代彫刻美術館（1830年レオ・フォン・クレンツ）と古代美術博物館（1848年ゲオルグ・フリードリッヒ・ジープラント、古代ギリシャ・ローマ時代の陶器などを展示）の2つが向かい合わせにあり、そのそばに近代美術のレンバツハハウス美術館（1891年建設、1929年美術館となる、20世紀初頭の前衛系を中心としたコレクション）がある。旧市内のレジデント（王宮）の内装も豪華であり、これらを合わせるとまさに芸術都市の名にふさわしい都市である。これらの博物館・美術館はすべて市役所からの半径1～1.5kmの半径内に含まれることになる。中央駅から美術館は1km程度、ドイツ博物館は2kmの距離にあり、トラムでつながっている。図5によればドイツ博物館が130万人、アルテ・ノイエ2つの美術館が各40万人、レンバツハハウスと古代彫刻美術館が20万人台という入場者数である。

これらの博物館のほかにも50ほどの博物館があるといわれ、それに聖母教会をはじめとする幾つかの教会、市役所とマリエン広場などの古い建物群、オペラ劇場、歩行者専用となっているノイハウザー・カウフィンガー通りの商店街などが組み合わさって大きな観光資源となっていて、ベルリンと並ぶドイツ南部の大観光都市となっている。

5 イタリア

この国も美術品が多く、古代からの考古発掘品も多数あって、世界の博物館・美術館の宝庫である。全国3000の博物館のリストが発行されている。大多数の都市が古代ローマ時代からの歴史を引き継いでいるから、歴史的な文化遺産は豊富である。当然それらの考古・歴史系博物館と美術館が多く見られる。ローマはヴァチカンを形式的には分離しているとはいえ（表3では一緒に計算されている）圧倒的な規模を持っている。大英博物館やルーブル博物館ほどの規模のものはないがその多様性と歴史的内容の厚みから言って、世界有数の博物館、美術館を持つことになる。表3には主要観光都市における博物館の種類と数を示した。大都市に多いという傾向はここでも変わらない。表には主要な観光地として評価されている都市について、7つの種類別に示した。すなわち、考古、美術、民俗、自然、歴史、科学技術、専門である。美術館をもたない都市はここには見られない。

表は人口規模30万人以上の大都市と、10万人以下の主要な観光都市を含めて22都市について整理したものである。美術館については、フィレンツェが最も多く34とこの都市の博物館の中で半数以上を占めている、次いでローマの24、ヴェネチアも23と（これも3/4を占める）が他を圧倒して多い。ミラノ、ジェノヴァも2桁の美術館を有している。また大学都市ボローニャに科学技術博物館が多いことは注目に値する。採択の基準が異なるとしても、都市の人口規模を考慮すれば大都市ではフランスの都市よりも博物館の数は少ないが、小規模の都市ではやや多いといえるようである。

表3 イタリア主要都市の博物館

	評価	人口	考古	美術	民俗	歴史	科学技術	自然	専門	合計
Rome	A	2,777	23	24	4	10	9	0	22	92
Vaticano	A									
Milano	A	1,367	2	16	1	1	2	0	9	31
Napoli	A	1,068	6	7	1	0	9	0	2	25
Torino	B	961	2	4	2	3	1	1	5	18
Palermo	A	688	2	4	1	1	4	0	2	14
Genova	B	647	1	12	1	2	2	0	4	22
Firenze	A	402	3	34	3	0	6	0	13	59
Bologna	B	403	2	9	2	1	13	0	6	33
Bari	B	333	1	4	1	0	4	0	1	11
Venezia	A	309	2	23	0	0	1	0	5	31
Verona	A	255	2	4	0	0	1	0	0	7
Trieste	B	219	2	6	1	3	2	0	4	18
Padova	B	211	0	3	1	1	6	0	0	11
Cagliari	B	170	1	6	0	0	4	0	0	11
Parma	B	167	1	3	1	0	5	0	2	12
Ravenna	A	137	1	2	0	0	1	0	2	6
Siracusa	A	126	1	1	0	0	0	0	1	3
Pisa	A	93	1	6	0	0	2	0	2	11
Lucca	A	85	0	4	0	2	1	0	1	8
Siena	B	54	1	7	0	0	2	0	1	11
Pompei	A	26	0	1	0	0	0	0	1	2
Assisi	A	25	1	5	2	0	0	0	0	8

資料：Il Libro dei Musei 3000, 1996 より作成

評価：BaedekerによるA=2星, B=1星, 人口1,000人

6 日本の博物館

日本の博物館は表4に示すと2004年に博物館4,044, 美術館966, 動植物園・水族館777(総計5,787)ある(「数字で見る観光」2004年版p.56)。都道府県別の偏在を見るために, 人口1万人当りの博物館数と面積当りの密度(km²)とを算出した。前者については日本海側と東山地方に高いことが示されている。数の上でも長野県が東京都を超えて最大である。他方, 低い値は大都市圏とその周辺及び九州に多く見られる。後者の数値は国土の平均が1.54/km²であり, 北海道, 東北, 四国, 南九州が低く, 関東から北九州にかけては高い。このことはこれらの文化施設への近接性の基準となるであろう(図6)。

博物館の設立主体をみると国立は28(現在は独立法人化されている)に過ぎず, 東京を主とした限られた場所にしかない。そのようななかでは県立が各地で最大規模を持つことが多い。その総数は322であるから全体の5%強にあたる。その中で, 総合博物館と美術館とを取り出して, 開設年次と規模(延面積m²)を表に示した。博物館には考古学系を除く歴史博物館と総合博物館, 美術館では一人の芸術家を主体としたものや陶芸

表4 県立博物館・美術館の開設年次と規模

都道府県	博物館	美術館	合計	1万人当	密度 /km ²	県立 総数	博物館			美術館									
							所在地	開設年	規模m ²	所在地	開設年	規模m ²							
北海道	241	48	356	0.63	0.45	16	札幌*	71	12,623	札幌	77	9,143							
										旭川	82	3,127							
										函館	86	3,226							
										帯広	91	3,522							
										釧路	98	2,279							
青森	60	1	69	0.47	0.72	4	青森	73	7,606										
							岩手	96	11	114	0.81	0.75	4	盛岡*	80	12,051	盛岡	01	13,000
							宮城	95	15	123	0.52	1.69	6	多賀城	99	15,446	仙台	81	12,129
							秋田	85	9	101	0.86	0.87	6	秋田	75	11,374	秋田	67	2,860
山形	74	12	95	0.77	1.02	5	山形	71	4,208	山形	64	5,692							
							福島	85	16	119	0.56	0.86	5	会津若松	86	10,978	福島	84	9,681
茨城	56	14	89	0.30	1.46	9	水戸*	74	—	水戸	88	10,501							
										つくば	90	6,177							
栃木	81	31	137	0.68	2.14	8	宇都宮	82	11,159	宇都宮*	72	5,970							
							群馬	90	31	140	0.69	2.20	8	高崎*	79	7,349	高崎*	64	12,530
埼玉	73	14	102	0.15	2.68	13	さいたま	71	11,346	さいたま	82	8,577							
							千葉	66	16	107	0.18	2.07	13	千葉	88	15,334	千葉	74	10,664
東京	198	74	305	0.25	13.93	21	江東区	93	48,000	台東区	26	31,984							
										江東区	95	33,515							
神奈川	100	34	167	0.19	6.90	15	横浜	67	10,565	鎌倉	51	4,036							
新潟	157	34	219	0.89	1.74	7	長岡	00	10,841	長岡	93	10,723							
富山	62	21	101	0.90	2.38	9				富山	81	8,195							
石川	77	24	110	0.93	2.63	17	金沢	86	—	金沢	83	11,427							
福井	41	7	55	0.66	1.31	7	福井	84	9,044	福井	77	6,033							
山梨	59	38	96	1.08	2.15	3				甲府*	78	4,731							
長野	283	110	431	1.94	3.17	3	更埴*	94	6,702	長野*	69	3,012							
岐阜	155	31	199	0.94	1.88	7	関	76	10,440	岐阜	82	7,743							
静岡	114	45	198	0.52	2.55	1				静岡	86	9,238							
愛知	126	22	181	0.25	3.51	5				名古屋	92	10,168							
三重	69	8	86	0.46	1.49	3	津	53	3,581	津	82	8,036							
							滋賀	80	13	102	0.74	2.54	8	大津	84	8,544			
										大津	61	1,552							
京都	74	20	108	0.41	2.34	4				中央区	80	546							
大阪	171	22	217	0.25	11.48	5				神戸	70	10,932							
兵庫	135	31	199	0.36	2.37	11	姫路	83	7,465	神戸	02	27,416							
奈良	54	7	72	0.50	1.95	4	大和郡山	74	4,249	奈良	73	5,951							
							和歌山	42	8	64	0.60	1.35	4	和歌山	71	6,866	和歌山	70	11,838
鳥取	40	7	54	0.89	1.54	5	鳥取	72	9,699										
島根	81	16	111	1.48	1.65	5	松江	59	3,255	松江	99	12,479							
岡山	78	26	120	0.62	1.69	10	岡山	71	4,604	岡山	88	14,269							
広島	90	27	134	0.47	1.58	4	福山	88	8,941	広島	68	19,926							
山口	65	11	84	0.56	1.37	3	山口	47	3,597	山口	79	6,680							
徳島	26	3	34	0.41	0.82	9	徳島*	90	8,133	徳島*	90	6,518							
香川	39	10	55	0.54	2.93	6	高松	99	19,652	高松	66	4,642							
愛媛	59	13	79	0.53	1.39	8	松山	76	334	松山	98	15,243							
高知	45	10	65	0.80	0.91	8	高知	52	362	高知	93	6,388							
福岡	81	18	118	0.23	2.37	7	大宰府	73	730	福岡	85	6,929							
佐賀	37	6	48	0.55	1.97	5	佐賀	70	4,718	佐賀	83	4,238							
長崎	62	6	79	0.53	1.93	4													
熊本	59	12	84	0.45	1.14	3				熊本	76	7,930							
大分	56	20	89	0.73	1.40	4	宇佐*	81	9,207	大分*	77	3,108							
宮崎	31	3	44	0.38	0.57	3	宮崎*	71	8,314	宮崎*	95	3,428							
鹿児島	61	7	87	0.49	0.95	4	鹿児島	53	4,543										
							鹿儿島	83	15,985										
沖縄	35	4	58	0.43	2.56	3	那覇	72	4,865										

注：* = 郊外立地

資料：日本博物館協会編「全国博物館総覧」

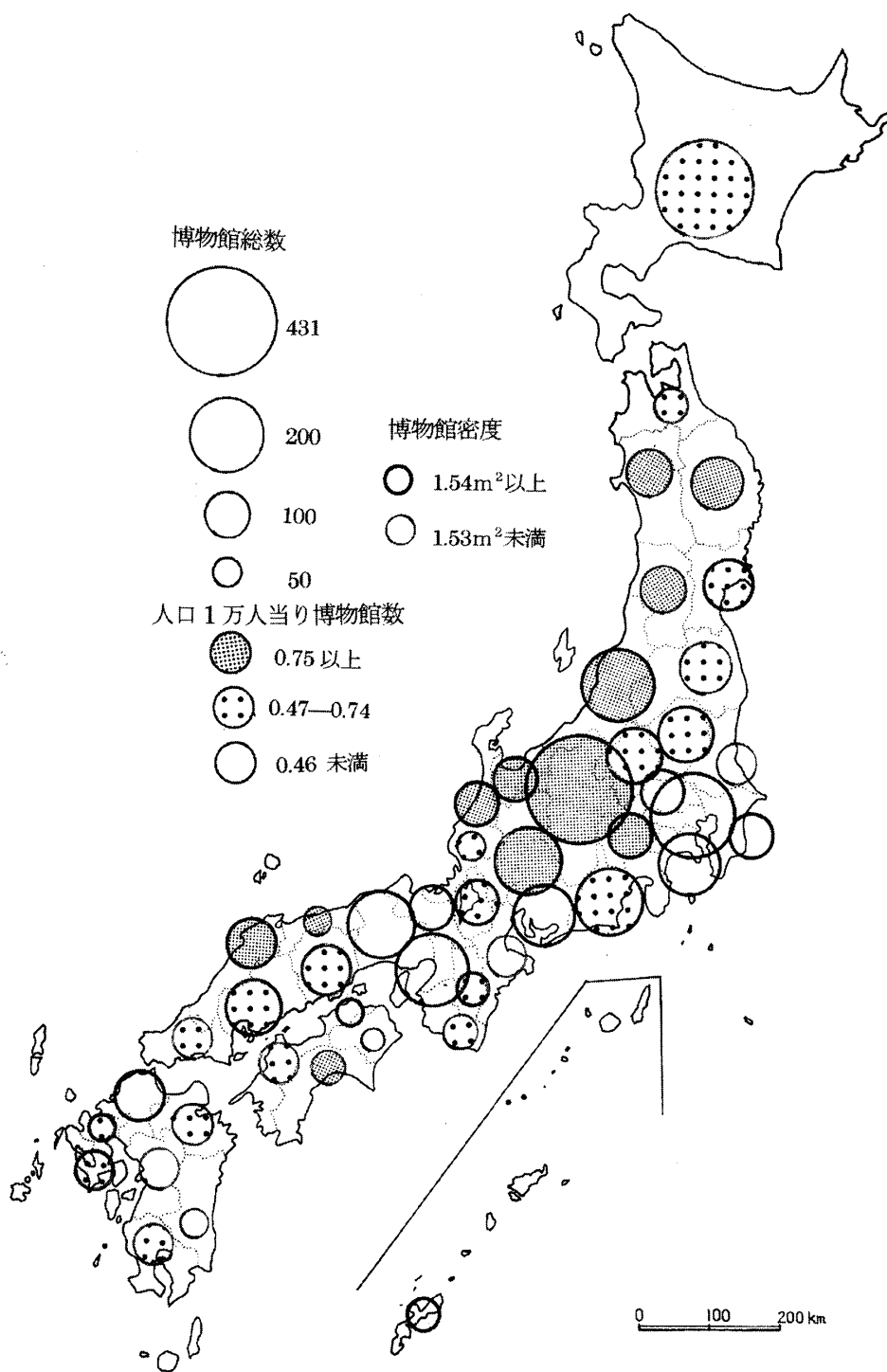


図6 日本の博物館

資料：日本観光協会：数字でみる観光2004を基に算出し，筆者作成。

など一つの専門に偏ったものを省き美術館，近代美術館を全国博物館総覧（毎年更新しているので2004年か）から取り出して県別に整理した。博物館が35，美術館が49になる。

開設年次を見ると博物館は70年代が最も多く16，美術館は80年代が最大でこれも16，90年代は博物館が5，美術館が8である。戦前からともに1であるが，戦後からは50年代に開設が始まるが博物館の4に対して美術館は2ということで美術館に比べて博物館の建設のほうが進めである。博物館より美術館が先に開設された県は秋田，山形，福島，栃木，群馬，東京，神奈川，新潟，石川，長野，兵庫，和歌山，広島，香川，大分の15都府県になる。美術館があって博物館がないのが富山，山梨，静岡，愛知，滋賀，大阪，奈良，高知，熊本と9府県あるのに対して，美術館を持たない県は青森，京都，鳥取，鹿児島，沖縄の5府県に過ぎない。概して東日本の方に美術館がより早く整備されてきたといえる。

美術館の方がより需要が高いというべきか，建設効果が大きいというか，展示物の収集が容易といえるか，その理由までは建設経緯の議会等での記録をみないと分析できないが，知事ないし議会から県民へのサービスの供給として美術館のほうが優位にあることが分る。それは群馬と新潟（こちらは博物館ともに長岡）を除いて美術館は県庁所在地に設置されるのに対して，博物館が県庁所在地以外に置かれている例は宮城，福島，群馬，新潟，長野，岐阜，兵庫，福岡，大分と9を数える。そのうち宮城は東北歴史博物館，福岡は九州歴史資料館を名乗っている。宮城の多賀城，長野の更埴はそれぞれ県庁所在地に隣接しているから都市圏としてみれば同一であるし，福岡の場合も大宰府はやや離れているとはいえ都市圏内である。しかし，福島の会津若松，兵庫の姫路は県内での有力な中心都市であり，かつ歴史的には重要な城下町であったから理解できるが，岐阜の関，大分の宇佐は全く離れ，しかもかなり小さな都市規模に設置されているのは，理由は不明であるが注目される。また新潟の場合は2つとも県庁所在地とは別の長岡に設置されているのは県内のバランスからなのであろう。

いくつかの県について説明を加えると，まず北海道の博物館は開拓記念館となっているので，いささか歴史系の中では特殊かもしれない。道内各地に歴史系博物館が存在し，旭川，函館，帯広，釧路の4つの拠点都市に類似の規模の美術館を配置している。茨城に美術館が2つあるのはつくば市に分館という形式で建設されたものである。横浜，名古屋，京都，大阪，神戸というかつての6大都市を形成していた都市での府県立博物館・美術館（神戸の美術館を除き）の存在感が薄いのはそれらが政令指定都市としての実力からなされた施設の充実と表裏の関係にある。また，東京，京都，奈良には日本を代表する有力な国立博物館があることも忘れてはならない。10大都市における博物館の集中については表5に示した。東京について京都に多いことが注目される。大阪が人口規模の割りに低いことと，広域中心都市にはかつての6大都市ほどの集中は見られないことが指摘できる。埼玉，千葉において県立博物館が多いのは郷土博物館系を分散さ

表5 10大都市の博物館

都市	国	県	市	財団	会社	大学	個人	合計
東京	15	15	45	64	24	22	9	194
大阪	1	2	12	7	3	0	0	25
名古屋	0	1	12	9	7	1	3	33
横浜	0	6	16	10	4	2	2	40
京都	2	2	7	32	5	9	3	60
神戸	0	4	10	10	9	0	0	33
札幌	0	2	1	1	3	0	0	7
福岡	0	4	4	2	1	0	0	11
仙台	0	0	3	2	2	1	0	8
広島	1	2	2	3	0	0	0	8

資料：全国博物館総覧

せて設置しているためである。茨城もその傾向が見られる。県立の博物館、美術館とにもないのが京都と長崎である。前者は国立博物館が存在するゆえであろう。なお、倉敷や鎌倉の例を考えると県庁所在都市以外の博物館・美術館の存在についても考察する必要があるとは思っている。

規模については収集品の数についてはデータのばらつきがあるので、建物の延面積を使用した。もちろん質を直接反映したものではないが、文化財・資料等の所有数に対応するし、特別展などを開催する場合の規模をはかる条件ともなるのでどのくらいの大きさかを見分ける基準とみなせる。規模のばらつきは大きく、東京の江戸東京博物館の4万m²から三重県立博物館の264m²までその差は大きい。平均すると（不明の3を除く）博物館が10,068m²、美術館が8,912m²となって博物館のほうが一回り大きいということになる。ちなみに美術館の最大は東京都現代美術館33,515m²、最小は大阪府立現代文化センターの546m²である。いづれにしても大規模な博物館・美術館は比較的新しい年代のものに多いという傾向は見てとれる。それとともに、郊外化する傾向もある。城址が利用されたり（佐賀、松山）、古い公共施設が博物館に転換されたり（山形）、移転の跡地に新設されたり（水戸）する例もあるが、広い敷地を求めて郊外化している場合（徳島など）が多い。駅から2.5km以上離れている場合について表4に印をつけた。

東京の博物館

東京23区にある博物館の総数は194、その設立主体と、種類別を表6にまとめた。国立（独立法人を含む）と都立がそれぞれ15あり、区立の45を合わせて40%弱となる。国立について言えば全国の半数以上が東京にあることになる。法人（財団、特殊、宗教）による運営は64と1/3を占めているが、企業が直接経営する形態は24と少なくなる。大学が多い東京では大学の博物館も22を数える。分野別に見れば歴史系が80と最も多く41%、それに区立の郷土博物館14（6割の区が設置している）が加わる。美術館は67で1/3強を占めている。理工系の博物館は動植物園・水族館10を合わせても22にしかなら

表6 東京23区の博物館

区	運営							計	種類						
	国	都	区	財団	会社	大学	個人		総合	郷土	歴史	美術	自然史	理工	動植物
千代田	6	0	1	7	2	3	0	19	1	0	10	6	0	2	0
中央	1	0	1	3	1	0	2	8	0	1	4	3	0	0	0
港	2	1	1	13	4	1	0	22	0	1	5	12	1	2	1
新宿	2	1	1	9	1	3	1	18	0	0	12	6	0	0	0
文京	0	1	1	3	3	4	1	13	2	1	4	5	0	0	1
台東	3	2	3	4	3	1	1	17	1	0	6	8	1	0	1
墨田	0	2	1	1	3	0	0	7	0	1	4	0	0	2	0
江東	0	4	4	2	1	0	0	11	0	0	7	1	0	2	1
品川	0	0	3	2	2	1	0	8	0	0	2	3	1	1	1
目黒	1	2	2	3	0	0	0	8	0	1	0	6	1	0	0
大田	0	0	4	1	0	0	0	5	0	1	2	2	0	0	0
世田谷	0	0	3	5	0	3	0	11	1	0	7	3	0	0	0
渋谷	0	0	2	4	3	3	1	13	0	0	8	4	0	1	0
中野	0	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0
杉並	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
豊島	0	0	1	3	1	1	1	7	0	1	3	1	0	1	1
北	0	0	2	1	0	0	0	3	1	0	2	0	0	0	0
荒川	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
板橋	0	0	4	1	0	1	0	6	0	1	1	2	0	1	1
練馬	0	0	2	1	0	1	2	6	0	1	1	4	0	0	0
足立	0	0	2	1	0	0	0	3	0	1	1	0	0	0	1
葛飾	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0
江戸川	0	1	2	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	2
合計	15	15	45	64	24	22	9	194	7	14	80	67	4	12	10

注：財団には法人，特殊法人を含む，国には独立法人を含む
種類の動植物には水族館を含む

ない。

区別に見ると，港区の22を筆頭に千代田，新宿，台東と続き，それに文京，中央を加えた都心部の6区で97と半数を占めている。外周部の区は世田谷区の11を除くと杉並の1をはじめ，足立，葛飾の2，北，江戸川の3，大田の4など軒並みに少ない。その中で，台東の上野の森には東京を代表する博物館が集中している日本の博物館地区を形成している。国立の東京国立博物館，西洋美術館，科学博物館それに都立の東京都美術館，上野の森美術館，東京芸大美術館に上野動物園が加わる。その核となる国立博物館は本館，東洋館，表慶館，法隆寺館，平成館の5つの建物に分かれており，総計67,108m²の規模を持つ。歴史の長さ，建物の風格とともに日本における博物館の存在感を示している。コンサートホールとしても東京文化会館が上野駅前にあってこれだけの文化施設が集まっている場所は他には見当たらない。例えば，京都の場合には平安神宮のある岡崎地区に国立近代美術館があってややそれに近いが，国立博物館が七条通りの三十三間堂前にあって離れているし大きさに違いがある。

7 おわりに

長年ヨーロッパの多くの都市を歩いている中で、博物館の存在の大きさを実感してきた。それを日本との比較という視点で整理しようと思い立ったのが、本論を書くきっかけである。短時間の滞在の中で、街の空間構造を理解するために歩くことと博物館を見ることがとを両立させるのはなかなか困難である。大英博物館クラスになると1日かけても見るのは不可能であるけれども、大きな博物館では半日以上かかることもしばしばである。都心部における立地と都市景観的な側面から地理学としてアプローチできないかと考えてきた。前者についても不十分なままで結論は出しにくいだが、後者の課題についても今回のレポートではふれることはできなかった。

パリ、ロンドン、ベルリンの3都市の比較というのが出発点にあったが、それぞれに対する資料の質が異なっていたためと、一国全体に関する博物館リストにも手を出したために余計に曖昧なものになってしまった。大都市ほど博物館は都心に集積し、多様であり面白いというのが実感である。スペイン、スイス、オランダについても整理しなかったが、そこまでの時間がなくなってしまった。アメリカにわたり、ニューヨークやロサンゼルスを見ると文化財のコレクションのあり方の違いに興味をそそられる。本文には生かせなかったが、博物館に勤務していた岡部あおみ著『ポンピドゥー・センター物語』紀伊国屋書店 1997（参考文献には載せなかったが）を読んだことが博物館の持つ意義を喚起させられて、この論を書くきっかけの一つになった。キュレーターの仕事については岩淵潤子著『美術館で愛を語る』PHP新書 2004が外部から伺えない世界が紹介されていて、美術館を理解するのに役立った。また本論執筆中に刊行された関秀夫著『博物館の誕生』岩波新書も日本の博物館の歴史を考える上で興味深い考察があり、大英博物館の影響の大きさを知ることが出来た。

日本においても高度経済成長期からバブル期にかけて博物館は急速に増えた。それらの立地を見ると建設者の視点からの発想が強く土地条件に制約されて、利用者の便は無視されている。モータリゼーションの影響を強く受けていて孤立した存在である。著名な建築家の手による建物の立派さと内容とが必ずしも一致していない嫌いがあるし、他の施設との関連性を欠いている場合が多い。都心についてみれば一時期大都市の百貨店は競って美術館を充実させていたが、今は見る影もなく撤退している。都市が競って博物館を充実するために整備を続けているヨーロッパの状況との違いを見ると、そこに日本の文化政策の弱さを感じる。

最後に、ミュンヘンについて資料の提供と、かつて案内をしていただいた山本健児さん及び、山田晴通さんに感謝します。

注

- 1) 日本では博物館と美術館を使いわけているが、英語のmuseum（それに対応する諸外国語）ではその両方を一般には含んでいる。フランス語のBeaux-Artsや英語のGallery, Collectionという形で美術館を別の言葉で示す場合もある。
- 2) INSEE（統計局）のデータによると196。
- 3) 星が見つからないで記載されたものを便宜上0と表記した。
- 4) Time Out Guide London（1998年版）によると博物館（Museum）61とCollection11, Gallery（公的14, 商業的32）が紹介されている。

参考文献・資料

- Cobbers,A.(2002): *Architecture in Berlin*. Jaron 223p.
- Guide Bleu France* (1997) Hachette 912p.
- Il Libro dei Musei :Guida al 3000 Musei d'Italia* (1996) Adnkronos Libri 607p.
- Ministre de la culture et de la communication (1998) :*Atlas des activités culturelles*. La documentation Française. 95p.
- Mironer, L.(2001) : *Cent musées à la rencontre du public*. France Edition. 459p.
- Der München Atlas; Die Metropole im Spiegel faszinierender Karten (2003) Emonos. 239p.
- Nerdinger,W.(2002) : *Architekturführer München*. Dietrich Reimer Verlag. 235p.
- Observatoire National du Tourisme(2001) : *Analyses et Perspectives du tourisme No. 74, les sites touristiques en France métropolitaine :Fréquentations 1994-2000*. Association Conventionnée par le Ministère chargé du Tourisme.
- Scimone,G.M.S., S.Olding eds.(1998): *London Musium and Collections*.CPC Guidebooks Canal Publishing Company. 328p.
- Staatliche Museen zu Berlin Preussischer Kulturbesitz (2002): *Berliner Museumsführer*. L&H Verlad 335p.
- Vela,G. et al.,(2003) : *Inventaire des équipements publics et privés à Paris*. 275p.
- ジャック・サロワ著 波多野宏之・水尾信之訳（2003）：フランスの美術館・博物館 文庫クセジュ 白水社 169+xxvi頁
- 関秀夫（2005）：博物館の誕生—町田久成と東京帝室博物館 岩波新書 241頁
- 全国美術館会議（2001）：全国美術館ガイド 美術出版社 599頁
- 寺阪昭信（1999）：ツーリズムから見た世界都市パリ 成田孝三編「大都市圏研究（下）」大明堂 47-69頁
- 日本博物館協会：全国博物館総覧 ぎょうせい 全4巻（毎年補充される）
- 西野嘉章（1995）：博物館学—フランスの文化と戦略 東京大学出版会 203+iii頁
- 20世紀・都市と思想 München-トーマス・マンと乱痴気街区（1993）PARCO出版 137頁
- 水沢勉, 津田孝二（2005）：ベルリン美術散歩 新潮社 127頁
- リュック・ブノワ著 水嶋英治訳（2002）：博物館学への招待 文庫クセジュ 白水社 165+xxi頁